

京都大学シンポジウムシリーズ

『大震災後を考える』安全・安心な輝ける国作りを目指してIV
『大震災後の「心のケア」を考える』

災害と宗教と『心のケア』

東日本大震災 現場からの報告と討議

石巻(撮影:須田郡司)

日時：2011年7月20日(水) 13:00～17:00

場所：京都大学稲盛財団記念館3階大会議室
(京都市左京区吉田下阿達町46)

◎第一部：13:00～15:00

趣旨説明：鎌田東二 (京都大学こころの未来研究センター教授)

基調報告：島藺 進 (東京大学教授) 『宗教者災害支援連絡会・情報交換会』の活動と課題
玄侑宗久 (福島県三春町福聚寺住職・作家) 『福島県での被災状況と被災地支援の現状
および復興構想会議の報告』

事例報告：稲場圭信 (大阪大学准教授) 『宗教者災害支援ネットワーク』の活動と課題
金子 昭 (天理大学教授) 『新宗教の災害支援活動の事例と課題』

◎第二部：15:15～17:00

討議 指定討論者：河合俊雄 (京都大学こころの未来研究センター教授・臨床心理学)

内田由紀子 (京都大学こころの未来研究センター准教授・文化心理学)

※ 受講資格:とくになし / 受講料:無料 / 申込:不要(先着180名)

研究プロジェクト『東日本大震災関連プロジェクト～こころの再生に向けて～』

平成23年3月11日、東日本大震災という、未曾有の事態が発生した。地震・津波・原子力発電所の事故という3つの要素による複合的かつ甚大な影響をもたらす災害を経験したことで、日本における幸福感のあり方、社会関係のあり方は被災地ではもちろんのこと、その他の地域においても変化したと考えられる。本研究プロジェクトでは、東日本大震災関連プロジェクトとして、宗教学・民俗学・社会心理学・文化心理学のアプローチから、こころの再生に向けての取り組みを行う。本シンポジウムはその一環として行われる。

主催：京都大学こころの未来研究センター「東日本大震災関連プロジェクト～こころの再生に向けて～」

